

アートで「江戸図屏風」めぐり

お茶の水女子大学附属小学校 郡司 明子

1. 実施学年：小学校5年生 教科・領域：「アート」（図画工作科）

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

①主題名：アートで「江戸図屏風」めぐり

②ねらい：「江戸図屏風」の鑑賞を通して江戸の暮らしや文化に関心をもつと共に、自分なりの視点を決めて、「江戸図屏風」に自身の分身を入れて撮影をすることを楽しむ。

③博物館との関連：

活用した資料：「江戸図屏風」ポスター・「江戸図屏風」床置きパネル（ビニル製）

「江戸図屏風」パズル・国立歴史民俗博物館ホームページ

3. 指導計画（5時間扱い）

過程	時間	学習活動○ 学習内容●	指導上の留意点
出会う	45分	○「江戸図屏風」を見る。 ●じっくり見て、何が描かれているか大まかに捉える。 ○「江戸図屏風」の基本事項を知る。 ●右隻、左隻に描かれた地名が記された学習プリントにて、興味ある場所(地名)をチェックする。	・ポスターサイズの資料なので人数、時間に制限を設けて、じっくり見られるようにする。 ・年代、作者不詳、大きさ屏風の特徴等 ・興味を示す子どものつぶやきをひろう。
知る	45分	○「江戸図屏風」パズル・左隻に挑戦 ●パズルを通して部分に描かれているものや、全体像を掴む。	・パズルは大事な資料であるため、丁寧に扱うことを約束。 ・パズルは20分程度で完成 ・残りの時間は分身のアイデアスケッチ等
調べる	35分	○歴博ホームページで調べる。 ●事前にチェックした地名を中心に、見たい場所を拡大して描かれた詳細を確かめる。	・分身を置きたい場所を意識して見るよう促す。
つくる	55分	○分身をつくる。 ●紙粘土で、自分の分身をつくり、色をつける。	・江戸図屏風に入る際に、自分の親指サイズぐらいが適当 ・それぞれの思いや願いに対応

楽しむ	45分	○撮影 ●「江戸図屏風」パネル（床置き）をじっくり見てまわる。 ●自分の分身を屏風の中の置きたい場所において撮影する。 ●よく見て、「江戸図屏風」に関するクイズづくり。	・撮影のポイントとして以下の確認 ①置く位置、向き、角度 →周りとの関係、目線、大きさ ②カメラは脇を締めてぶれないように。 ・さらに、よく見たくなるようなクイズづくりを心がける。
まとめる	宿題	○学習プリントをまとめる。 ●撮影した写真を貼る。 分身を置いた場所とその理由、分身についての説明、クイズづくり、学習のふり返りを記述。	・まとめる際に、家庭学習でも歴博のホームページを活用するよう紹介。

4. 実践の概要

○ 1/26（木）第1回目：「江戸図屏風」に出会う ・ 知る

●「江戸図屏風」をよく見る



- ・「江戸図屏風」の縮小ポスターを眺める。
「何だろう、何が描かれているんだろう。」
馴染みのある地名を見て、「これは江戸？」
「あ、参勤交代だ」「富士山がある」などの声あり。
- ・8人ずつ、2分間ぐらい。4グループ。
- ・ポスターを見終わった子に、右隻、左隻それぞれに描かれた地名が記されたプリントを配布。
「ここ、うちの近くだ」「あ、ここ知ってる」

- ・興味のある場所（地名）にチェックを入れる。
- ・「江戸図屏風」17世紀、三代将軍徳川家光の時代
- ・各 162.5cm × 366.0cm の大きさ、六曲一双、作者不詳等、基本的な事柄を説明

●パズルに挑戦

- ・お借りした大事なものであること、扱いには十分に注意することを確認して、1人3枚手渡す。



- ・学習机を2×4台並べてパズルを進める。
- ・30人、全員が同時に参加するのは難しい。
後半は、グループごとに時間制限を設けた。
- ・黒板に江戸図屏風縮小ポスターが貼ってあったので、照らし合わせて進める子もいた。
- ・残りの時間で、次回の内容紹介。
分身のアイデアをふくらませる。（スケッチ）

○ 12/ 3 (木) 第2回目:「江戸図屏風」を調べる ・ 分身をつくる

● 「江戸図屏風」を調べる



- ・ パソコンルームで歴博ホームページを見る。
前回の授業で学習プリントにチェックした地名を中心に、見たい場所を拡大して描かれているものを調べる。
- ・ 自分の分身を置きたい場所を意識して見る。
- ・ ホームページを通じて、「江戸図屏風」の拡大に留まらず、解説のページを楽しむ子もいた。

● 分身をつくる (立体に表す活動)



- ・ アイデアを描き表してからつくりたい子、紙粘土を手にしながらかえたい子、それぞれのタイミングで、自分の分身をつくる。
- ・ 「江戸図屏風」の拡大 (1.25 倍) パネル (床置き) に馴染む大きさの目安として、自分の親指サイズが丁度良いことを伝えた。
- ・ 結果としては、子どもの手のひらにのるサイズが多かった。

〔分身づくりの材料〕

紙粘土・絵の具・カラーペン (着彩用)・竹ひご・爪楊枝・テグス (吊って撮影する) 等

〔子どもがつくった分身の例〕

犬、猫、うさぎ、亀、魚、トナカイ、サンタクロース、妖怪、様々な要素が合体した生き物、自分に似せてつくった人間、お姫様、江戸時代風物売り、野球少年、空飛ぶ鳥、龍 (てぐすをつけて俯瞰) 等

○ 12/17 (木) 第3回目:「江戸図屏風」で撮影を楽しむ

● 分身を「江戸図屏風」に入れて撮影



- ・ プレイルーム (広い空間の多目的室) に床置きパネルを広げる。(5~6人の手伝い)
- ・ 撮影のポイント
 - ① 置く位置 (周りとの関係)
 - ② 置く向きや角度 (目線の先との関係)
 - ③ 画面上の大きさ (周囲、背景の様子)
 - ④ カメラは脇を締めてぶれないように

- 2台のデジタルカメラで対応
一つは子ども使用、もう一つは教師が子どものリクエストに対応して撮影。
- 撮影が終わった子から、江戸図屏風を再度じっくり見て、クイズづくり等、学習プリントの記入を進める。

〔江戸図屏風における分身ー子どもの視点ー〕



「バッター、迎え撃つのはイノシシ」



「駿河大納言殿の門にお姫様出現!？」



「板橋に向かうトナカイとサンタクロース」



「御花畠でネコがごろにゃーん」



「桧物屋御鞭打の場面を制する少女」



「ドラゴン、江戸城上空を旋回中」

●学習プリントの記入（学習のふり返し）は家庭学習（宿題）に

- ①江戸図屏風に入り込んだ場面（場面や状況の解説をくわえる）→写真を貼る
- ②分身を置いたお気に入り（こだわりの場所）
- ③その理由
- ④分身について
- ⑤江戸図屏風クイズ（3問以上つくってみよう）
- ⑥学習のふり返し

これらを書いてまとめることを宿題にした。

和ごころ めぐり

出 名所

○撮影した写真を貼って、その様子を紹介しよう

○分身を置いたお気に入り（こだわり）の場所

○その理由

○分身について（絵をかいて性格などを記す）

-1-

○江戸図屏風クイズ（3問以上つくってみよう）

○学習のふり返し


-2-

[子どもの学習プリント]

和ごころ めぐり

出 名所

○江戸図屏風に入り込んだ場面（解説をくわえましょう）



ト)様へ何かを
伝えてるところです。

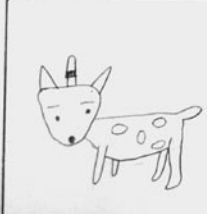
○分身を置いたお気に入り（こだわり）の場所

江戸の武士みたいにちよんまげをつけたところ。

○その理由

本当に江戸の風景になじめるように本場の江戸の人物み
たいにするため。

○分身について（絵をかいて性格などを記す）



※足が元のまごへく速いので、
馬いらすでどこへでも
行ける

※け、こうやさしい

※ちよんまげが少し大きい

※日本のしほ'犬'とシヤック・
ラッセル・テリアと武土が
合本している

○江戸図屏風クイズ（3問以上つくってみよう）

Q1何の肉が売られていましたか？

Q2約、何人の人がいますか？

Q3この江戸図屏風は今のどこを
えがいている屏風ですか？

A1しが 又はしかの足の肉

A2なんと……………3000人！

A3東京
11昔
江戸 → 江戸図屏風

○学習のふり返し

★本物の屏風の中に入るといのは、本当に
タイムスリップをしたみたいで、自分の作った
分身だけじゃなく自分までタイムスリップ
をした気分だった。

★小さい国 がらがたくさんあったので、虫
めがねがほしかった。虫めがねを使い
細かく見てみたい。

5. 成果と課題

〔成果〕

- ・江戸時代の様子、人々の暮らしを中心に、興味や関心を持つことができた。
- ・「創造活動」（総合的な学習の時間）で行ってきた“和ごころ伝統めぐり”のテーマに「アート」の視点から迫ることができた。
- ・子どもは、江戸の地名を自分自身に引き寄せて見ていた。
 - 馴染みのある町名が江戸時代から続いていることへの驚きと喜び。
江戸時代からのつながりを感じている。
- ・分身を置く場所を選ぶことによって、ただ漠然と見るのではなく、細部にも意識を向けて見ることができた。
- ・分身と共に、自分も「江戸図屏風」の中に入り込んで旅するような感覚を味わっていた。
 - 自由に行きたい所に行き、置くことで立ち止まる。仲間と一緒に入り込む楽しさも。
- ・分身を置いて撮影することにより、自分なりの見方や創造的な見方が可能になった。
 - 自分なりの意味づけ、価値づけ、ストーリーづくりを行っていた。
 - 江戸時代の様子や人々と、擬似的にでも、自分の分身を通して自分自身が関係性を結ぼうとすることに積極的な意味を見出したい。
床置きパネルは、積極的かつ創造的な鑑賞体験が可能になる装置（仕掛け）である。

〔課題〕

- ・5年生で、歴史的な視点をどのようにおさえるか。
江戸時代やこの当時の人々の暮らしに興味を感じている子は多いが、歴史をおさえる学習としての意味合いは弱いままであった。この体験が6年生での歴史学習の入り口（興味のきっかけ）になることを願う。
- ・「江戸図屏風」を見て、クイズづくりをすることの難しさ。
クイズをつくることを通して、また、仲間のクイズを解くために、よく見ようとすることをねらった課題であったが、拠り所をもてない子は苦勞していた。
 - ワークシートの改善、問題と答えの誘導を丁寧にする。
クイズの例を挙げて、取り組みやすいようにする。
さらに調べ学習をしたい子に、資料を手にするような環境を整える。
クイズを出し合って、互いに楽しめる活動を入れ込む。
- ・まず、発見したこと、見つけたこと、驚いたこと等、クイズの前に出し合える活動を入れたい。活動内容や展開の見直しが必要。
- ・分身づくりの時間確保、製作時間の個人差→別課題の準備、対応。
- ・デジカメ撮影から選んで印刷する過程を、子どもに委ねる方法の開発と環境整備。
- ・よりよい学びにしていくためのワークシート（課題）の見直し。
場面や状況の説明と同時に、吹き出しを入れてセリフなどを考えてみるのも面白い。
- ・ワークシート（ふり返り）の記録を授業時間の中で行い、丁寧に学びをまとめる時間の確保をしたい。

〔博学連携の視点から〕

- ・東京から佐倉は若干遠い。博物館に行く機会が得られない子どもたちでも、資料をお借りすることで、「江戸図屏風」に親しみ、その奥深さにふれる体験が実現した。
- ・博学連携研究小学校部会の会合において、「江戸図屏風」の教材研究を重ねることができた。江戸図屏風を数回にわたって実際に見て、館の方々にご教示いただき、歴史的な読みとりや専門的な知識を得ることによって、教師自身が教材の価値に心を動かされたことが、子どもと学びを共有する出発点であった。
- ・研究員の先生方の「江戸図屏風」を用いた実践報告を通して、イメージが広がると共に、協議を重ねる中で面白いアイデア（「江戸図屏風」のパネル上で双六遊びをするなど）を交流し合えたことが、新たに授業を生み出す上で大きな刺激となった。
- ・アート（図画工作科）の視点から本研究に参加させていただき、歴史的価値のある「江戸図屏風」の教材化に携わる中で、鑑賞と表現の一体化と共に、子どもの遊びと学びが融合して新たな価値を形成していく授業のあり方を見出し、提案することができた。

6. わたしの考える歴博活用案

5 学年	アート	単元名	アートで「江戸図屏風」めぐり	8 時間扱い
------	-----	-----	----------------	--------

① 学習のねらい及び指導要領との関連

本学習のねらいは、「江戸図屏風」の鑑賞を通して江戸の暮らしや文化に関心をもつと共に、自分なりの視点を決めて、「江戸図屏風」に自身の分身を入れて撮影し、ストーリーづくりを楽しむことである。

「アート」（本校における図画工作科）の学習としては、鑑賞を契機として立体に表す活動と写真に表す活動を中心に、言語活動にも及ぶ広範囲な学びを構成する。個々の感性を働かせて、自分なりの視点で「江戸図屏風」に積極的にかかわろうとする子どもの姿が期待できる活動である。また、本学習活動は、次の点で学習指導要領（図画工作編）において求められている課題に応えるものと思われる。

・博物館や美術館などの利用

鑑賞については、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすることが求められている。本活動は、異なる地域の博物館ではあるが、連携が可能な一例となろう。

・鑑賞と表現の一体化

表現と鑑賞は一体的に補い合って高まっていく活動である。指導要領図画工作編でも互いの関連を図るようにすることが強調されている。

まず、「江戸図屏風」を概観し（鑑賞①）、パズルを通じ、また歴博ホームページで関心のある部分を拡大して確認し（鑑賞②）、自分なりの分身を紙粘土で立体に表し（表現①）、さらに、分身を置く場所を決めるために全体を再び鑑賞し（鑑賞③）、撮影（表現②）するために細部を鑑賞し（鑑賞④）、最後には、撮影された写真を意味づけたり関連づけたりする言葉を書く（表現③）ために、あらためて自身の表現を鑑賞（鑑賞⑤）する。このように、鑑賞と表現が行き来する活動において、作品への親しみが増すと同時に、作品を

自分自身に引きつけて、積極的に学びをつくり出していくことが可能になると考える。

・〔共通事項〕の内容

指導要領図画工作編では、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示している。指導においては、「自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基に自分のイメージをもつことが十分に行われるようにする。」ことを挙げている。本活動は、自分の感覚や活動を通じた「江戸図屏風」の鑑賞を経て、細やかな形や鮮やかな色、人々や動物の動き、画面全体の躍動感、全体の風景や建物などの奥行きをとらえることが可能である。さらに、分身を入れ込むことを通じて、自分なりの新たなイメージの展開が期待される学習活動であり、共通事項を十分に満たしていると言えよう。

・造形遊びの要素

本学習における主たる活動は、自分の分身を「江戸図屏風」に置いて撮影することである。その際、子どもたちは分身を手し、右隻・左隻のパネルを縦横無尽に歩いて回り、時に目を凝らして周囲の様子を捉え合わせながら、撮影に適した画面を選び出す。それは、造形遊びをする活動を通して、「材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくること。」「材料や場所に進んでかかわり合い、それらを基に構成したり、周囲の様子を考え合わせたりしながらつくること。」といった指導要領図画工作編の内容における子どもの姿そのものである。

・我が国の美術や文化に関する指導

指導要領図画工作科改訂の趣旨（平成20年版）において、改善の基本方針では、「美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。」ことが謳われている。

改善の具体的事項では、鑑賞において、我が国の親しみのある表現などに関する学習を通じて、作品などのよさや美しさを主体的に味わったり感じたりすることを重視し、自分自身で意味を読み取り、よさや美しさなどを判断する活動の充実を図ることが期待されている。「江戸図屏風」は、東京に暮らす子どもたちにとって親しみのある美術作品であると同時に、江戸の文化を今に伝える貴重な資料でもある。「江戸図屏風」の教材化は、我が国の美術や文化に関する指導の充実につながると思われる。

・言語活動の充実

学習指導要領 第1章 総則では、児童の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、「言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。」を謳っている。これを受けて図画工作編でも、鑑賞の内容に、「話したり、聞いたりする」、「話し合ったりする」などの学習活動を位置づけ、言語活動を充実することを改訂の要点に挙げている。

本活動では、鑑賞の活動を通じて子どもの自然な対話が期待されることはもちろん、数カ所で撮影した写真をストーリー仕立てにして視覚的な表現に言語表現を入れていくことから、想像的で創造性豊かな言語活動の充実が図れるものと考えられる。

・コンピュータや情報通信ネットワークの活用

小学校学習指導要領 第1章 総則では、各教科の指導に当たって、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用できるようにするための学習活動を充実することを挙げている。博物館などのホームページにアクセスして、調べ学習を進めることは、情報通信ネットワーク活用の一つと言えよう。

・発達段階に適した活動

学習指導要領 第1章 総則では、「各教科等及び各学年相互の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。」とある。5年生で学習分野「アート」（図画工作科）の遊びの要素を通じて「江戸図屏風」に出会うことは、6年生において「市民」（社会科）で行う歴史学習への入り口にもなる。積極的に鑑賞を通して江戸の世界を味わった経験は、日本の歴史や史実への興味関心に誘うことだろう。また、歴史的な視点をそれほど持ち得ない子どもであるだけに、既成概念にとらわれない自由なもの見方が可能な時期でもある。以上のことから、5年生の発達段階における適時性を踏まえた活動であるといえる。

②使用資料

・「江戸図屏風」ポスター



※歴博から借用

・歴博ホームページ



・「江戸図屏風」パズル



※歴博から借用

・「江戸図屏風」床置きパネル（ビニル製）



※歴博から借用



③展開（7時間扱い）

過程	時間	学習活動○ 学習内容●	指導上の留意点〈資料〉
出会う	45分	○江戸図屏風を見る。 ●じっくり見て、何が描かれているか大まかに捉える。 ○江戸図屏風の基本事項を知る。 ●右隻、左隻に描かれた地名が記された学習プリントにて、興味ある場所(地名)をチェックする。	・ポスターサイズの資料なので、人数、時間に制限を設けて、じっくり見られるようにする。 ・年代、作者不詳、大きさ屏風の特徴、等 ・興味を示す子どものつぶやきをひろう。
知る	40分	○江戸図屏風パズル（左隻）に挑戦 ●パズルを通して部分に描かれているものや、全体像を掴む。	・パズルは大事な資料であるため、丁寧に扱うことを約束。 ・分身のアイデアスケッチ等
調べる	30分	○歴博ホームページで調べる。 ●事前にチェックした地名を拡大して、描かれた詳細を確かめる。	・分身を置きたい場所を意識して見るよう促す。
つくる	50分	○分身をつくる。 ●紙粘土で、自分の分身をつくり、色をつける。	・江戸図屏風に入る際に、自分の親指サイズぐらいが適当 ・それぞれの思いや願いに対応
楽しむ	50分	○撮影＋プリントアウト ●江戸図屏風パネル（床置き）をじっくり見てまわる。 ●自分の分身を屏風の中の置きたい場所（3～4カ所）において撮影する。その際、数枚の写真のストーリー展開を考えながら撮る。	・撮影のポイントとして以下の確認 ①置く位置、向き、角度 →周りとの関係、目線、大きさ ②カメラは脇を締めてぶれないように。 ・プリントアウトの方法指導
まとめる	40分	○ショートストーリーづくり ●写真3～4枚のつながりを考えてパネルに貼り、話の展開を表す。	・写真のつながりを楽しく表現できるように促す。
見合う	40分	○作品鑑賞 ●互いの作品（パネル）を紹介し合う。	・それぞれのよさや面白さを受けとめ合える環境設定。